

---

# 14歳の恋愛日記

M i n k

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

14歳の恋愛日記

### 【Nコード】

N3167D

### 【作者名】

Mink

### 【あらすじ】

14歳の、気弱な女の子が気弱な男の子に恋をした…何もかもが初めて、そんな初々しい恋人たちの心が温まる日記。感動的な話ではなく、共感のもてるお話です。意外に見れるように見れない、他人の日記帳を覗いてみましょう。

A H A P P Y N E W Y E A R ! !

これは、慶太くんとの仲が深まるようにって、  
おまじないをかけた日記帳です。

昨日友だちのあゆみちゃんがこのおまじないを教えてくれたんだ。

~~~~~

「美月ちゃんにピッタリのおまじない教えてあげる」。

1月1日に日記帳をつけるの。それで、1ページ目の一番上に、  
好きな人の名前をつけて一日も欠かさず彼とのことだけを書いて  
いくんだって。

で、その時にはじめから書いてくと、後で読み返した時に忘れな  
いよ」。

~~~~~

でもこれ、一生他の人に見せられないな…

神様、どうか、どうか、この思いを届けてください！

…ま、とりあえずそれは置いといて、

今日、慶太くんから年賀状が届きました！（キヤーツ！）

しかも、メルアドが書いてあったんだよ！

「困った時はメールしてね」って。

やっぱり優しいな、慶太くん。今年もよろしくね…

i n)

(F

. . . . .  
. . . . .  
. . . . .

1 / 2 天気 晴れ

冬休みって…つまんない。。

まだ私は中一だけどさ、勉強できないんだもん！

慶太くんとも会えないし…どうしようかな？

しょうがないから、出会った日のことについて書こうと思います。

4月の新しい学校での入学式。

私は、国立の学校に受かったので、たった一人からのスタートになった。

(つまんないなあ…)

でも、しょうがない。

だって、前の学校では、いじめられてばかりだったから。

私は、何度も家に逃げ帰り、先生にも、親にも、一杯迷惑ばっかかけてた。

だから必死に勉強して、この学校に入った。

もう人に迷惑なんてかけない。もう、一人で頑張っていこう。

そう思ってたのに…

新しいクラスになって、わたしは、あゆみちゃんっていう親友ができた。

でも…ただそれだけだった。私へのいじめは終わらない。

あゆみちゃんがいて本当によかった。まだ、仲良くしてくれる子がいたから。

私がいつも屋上に行くたびに、あゆみちゃんだけが励ましてくれ

てた。

あゆみちゃんがいるから、私は学校に来れる。

~~~~~

「ごめんね、ごめんね……」

うそ。なんで……

「市立の学校に……行っちゃうの？」

「親がいなくなっちゃって……お金が払えないからって……」

そのあとはなにも言わず、ただ泣いてるだけだった。

そうだよ、一番つらいのは、あゆみちゃんなんだ……

「これから、一人で頑張ってね……」

~~~~~

それから、ずっと一人だった。

でも、頼ってた人がいなくなつて、私はずいぶんと強くなったかも知れない。

わたしはやっと、普通の友だちとして、みんなと接することができるようになった。

だけど……やっぱり自分から言いたいことが言えない、そんな日が続いてたある日。

~~~~~

私はいつもの屋上で、そんな自分の惨めさに泣いてた。  
すると、私の目の前に、おっきな影ができた。

「…だいじょうぶ？林さん。」

…だれ？

私はフツと顔を上げる。

背は私と同じくらいで、かわいい女の子っぽい顔つきだった。

わたしは、今までで感じたことのない気持ちでいっぱいになった。

私に普通に話してくれる男の子は、この人が初めてだった。

「あ、ゴメン、突然声かけて…僕、隣のクラスの芦田慶太。

人からはよく変わってるとてからかわれててさ。

一人になった時にはよくここに来るんだよね…」

わたしと…一緒だ。

「僕と似てるっていうと失礼だけど、林さんなら話し合っかなって  
思っ…」

……！

「友だちになってください。」

~~~~~

彼は、顔真っ赤っかにしてそんなこと言っただけ。

今考えると、そんなことあり得ないと思っただけ、ホントにあ  
った話。

あれ以来、私は学校に来る理由が一つ増えた。

慶太くんの顔が、いつも離れないんだ。

さてと、もう寝なくちゃ。

あ、そうだ、明日にでも慶太くんにメール…してみようかな。  
緊張するよっ！

( F i n )

1 / 1 芦田慶太くん 1 / 2 (後書き)

「~~~~」で挟まれているところは美月たちの回想シーン、「. . . . .」で挟まれているところは次の人の境目とお考えくださいませ。ぐだぐだで申し訳ありません〜(どうかお手柔らかに  
…)

## 1 / 3 (前書き)

今日は生まれて初めて美月が好きな男の子・慶太にメールを出します。美月の1 / 3の日記です。



今日、とうとう慶太くんにメールをしちゃいました！

そういえば、私も自分用のノートパソコンをもらって初めてのメル友なんだよね…

ホントどうすればいいのかわからなかったし、もう、緊張しまくりだったよー（汗）

で、冬休みだったからかもしれないけどすぐにメール返してくれて嬉しかった！

~~~~~

「うーん……何を書けば良いんだろう？」

わたしは母からの譲りものの古いパソコンの前で既に6分ももだえていた。

・・・だめだ！

「ぜんっぜんわかんない…だめだ…あゆみちゃんに電話しよ…」

私はとうとうギブアップしてあゆみちゃんに電話をかけた。

「大丈夫だよ。自分の気持ちを素直に書けばきっと伝わるよ。」

「そ、そうかな…」

「そうだよ。もっと自信持つて！」

ために、なんか書いてみなよ。…そう、…あ、だめだめ、もつとこんなこと言わないと…」

「え、むりだよー！」

…とか言いつつ、何とかこんな文章を完成させた。

『 芦田くんへ

明けましておめでとう！年賀状ありがとう。すごく嬉しかったで

す。

休みばっかで芦田くんに会えなくて寂しいです…  
みんなと家が遠いみたいで友だちに会えないから、  
芦田くんとメル友になれてとっても嬉しいです！  
でも、私はパソコンだからすぐに返事返せないかも知れないので、  
許してくださいね（笑）  
メール、待ってまーすっ

林  
』

こんなの、絶対引くと思ってたのにさ、送信してすぐに返事返ってきたんだ。

「わっ、もう返ってきた！ええっと…

『林さんへ、

メールありがとう。僕もパソコンだからすぐには分からないかも知れませんが。

その時は気軽に待っててくださいね。

僕も林さんに会えなくて寂しいです』…え？」

慶太くんが…私のことを？

私はそんなことばが並べられたパソコンの前で顔を真っ赤にしていた。

慶太くんが、私のことを考えてくれてる。

そう思っただけでホントに心臓がバクバクして、  
もう、ホントやばかったよー！！

で、そのメールの続きで、な、なんと

『メールだけだと大変なので、電話番号を書いときます。

塾は夕方頃終わるので、8時からならいつでも大丈夫です。

でも、あんまり長電話だと怒られるかな（笑）』って書いてあったんだ！

どうしようっ！わたし、慶太くんに近づくことできたかな…？で、その後、今日一番嬉しかったことがありました。

~~~~~

……よし！

私は自分に自分で気合いを入れ、パソコンに文章を書き込んだ。

『 芦田くんへ

お返事ありがとう。すぐ返ってきたからすごくビックリしたよ。。

あの、明日、8時に電話していい？ 』

パチッ

『 いいよ。待ってます。 』

・・・うそ。やったー！

~~~~~

と、言うわけで、明日、勇気を持って電話しようと思います！  
たぶん、今年一番の勇気を持って電話します（もう！？）  
明日が楽しみだな

（フィニッシュ）

## 1 / 3 (後書き)

なんか、日記本文より回想シーンの方が多いような…反省です…早く腕を上げるぞ！(笑)

## 1 / 4 (前書き)

今日はとうとう美月が初めて好きな男の子、慶太に電話します。その様子と、1 / 4の美月の日記です。

今日は、とうとう慶太くに電話しました！（しかも30分も！）  
もう、ほんっとドキドキして、かなわなかったよ～

~~~~~

「プルルルルルル…」

うゝ、ドキドキするゝ！

時間は午後7時53分。

ちよつと早すぎたかな…

『……はい、芦田です。』

かかった！

「え、えと…林です。」

『あ、林さん！早かったね。』

「え？そそ、そう？」

芦田くんの声だあ…そう思うと、なかなか話そうと思ったことが  
話せない。

とにかく言葉が詰まり、かんでしまう。

「え、えと…今年は初詣、行った？」

とりあえず私はお正月のことについて話すことにした。

『うん。行ったよ、御国神社に。』

「えっ！御国神社って…あの…ハッピーマーケットの近くの？」

『そうだよ、何で知ってるの？』

「私のうち、その近くだよ！」

嬉しかった。もしかしたら…

「もしかして、うちってその近く？」

『うん、ハピマ（ハッピーマーケット）の裏。』

「ほんとに！」

つい、声が大きくなってしまった。だって、休みの日も会える距離だったから。

~~~~~

その後の話で分かったんだけど、私の家と慶太くんの家はちょうど敷居があつた所で、ちょうど違う学校だったみたい。

もうその後は地元ネタで盛り上がって、めっちゃ楽しかったよ、しかもね！

~~~~~

『あの、さ…』

急に慶太くんが改まって聞いた。

「なあに？」

私は急にドキドキしてきた。

『早く…始業式になつてほしいよね。』

「え…なんで？」

（林さんに会えないから…なんて）

バカな想像、いや妄想だな。わたしは、ひとりでに笑った。

『だつてさ…』

「…うん。」

『友達にも会えないし…』

やっぱりね。ちよつとだけ妄想した私がバカでした。



「…そうだよね!」

『それに…』

『林さんにも…会えないし。』

…えっ？

「…ほんとに？」

慶太くんが…私のことを？

『……うん。』

慶太くんの声が、段々聞こえなくなってくる…

しばらくの沈黙…

『あ…そうだ、始業式の日、空いてる？』

沈黙を破ったのは、慶太くんのその声だった。  
始業式の日…どうだったかな…？

え…っとな…

「空いてる…けど？」

『うち、遊びに来ない？』

……！？

「い、いいの？」

『うん。』

顔に手をやった。熱かった。  
鏡見なくても分かる。いま、私の顔は真っ赤っかだ…

『……ありがとう。』

同じタイミングで、勝手にでてしまったことばだった。

~~~~~

その後は、もう慶太くんからは何も喋ってこなかった。  
相当…勇氣…出したんだろうな…

……

私から、言うつもりだったのに。  
さき、こされちゃったな・・・。  
これで、電話とおさそいで、一勝一敗。  
告白だけは：絶対負けられない。私から、言ってやろう。

( F i n )

## 1 / 4 (後書き)

今回はあえて電話のシーンを増やしました。次こそ、次こそは日記を増やします… (ホントすみません)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3167d/>

---

14歳の恋愛日記

2010年12月18日23時40分発行